

【主催】 NPO 法人ホールアース自然学校

「小さな自然再生」研究会 / 日本河川・流域再生ネットワーク

【協力】 芝川で小さな自然再生を楽しむ有志の会 / 公益財団法人リバーフロント研究所

「小さな自然再生」現地研修会（第28回）開催報告

2025年10月21日（火）静岡県富士宮市・芝川



座学研修



現地視察



アクセス道路づくり



実践後の記念撮影



日本河川・流域再生ネットワーク

2026年3月



公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

「小さな自然再生」現地研修会（第28回）

開催報告

2025年10月21日（火） 静岡県富士宮市・芝川

はじめに

静岡県富士宮市を流れる富士川流域芝川において、「『環境教育プログラムとしての小さな自然再生』を体験してみよう！」をテーマに第28回「小さな自然再生」現地研修会を開催しました。本研修会では、小さな自然再生活動を通じた水辺の生態系保全と共に、その活動の中に見い出せるさまざまな環境教育プログラムを試行しながら、「芝川のためにできること・芝川でできること」を参加者とともにアイデアを深めました。

この開催報告は、研修会の参加者とともに学び議論した内容の一部を、当日の写真を中心に皆様にご紹介するものです。

本研修会にご参加、またご協力頂きましたの皆様に厚く御礼申し上げます。

2026年3月

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

開催概要

- 開催日時： 2025年10月21日（火） 10:00～17:00
- 開催場所： 静岡県富士宮市下柚野 165
<座学：ホールアース自然学校 富士山本校/現地：芝川>
- 参加者： 38名
- 主催： NPO法人ホールアース自然学校
- 共催： 「小さな自然再生」研究会/日本河川・流域再生ネットワーク
- 協力： 芝川で小さな自然再生を楽しむ有志の会/（公財）リバーフロント研究所

プログラム

(10:00～10:50) 座学研修

- 開会挨拶
- 芝川における自然体験活動の紹介と今後の展望
(松尾 章史：NPO法人ホールアース自然学校)
- 芝川の魚類や水生昆虫のプラスチック標本づくり
(三橋 弘宗：兵庫県立人と自然の博物館・ひとはく)

(11:00～16:00) 小さな自然再生と水辺の環境教育の実践 @芝川

- 芝川の視察 及び 水辺へのアクセス道路づくり
 - バープエで寄り洲づくり、魚の隠れ家づくり実践・解説
 - 環境教育プログラム実験
寄り洲があると水が綺麗になる ～ 川の砂を使ったろ過実験 ～
水生昆虫を餌にして、生分解資材だけでフィッシング
- 現地技術指導：三橋弘宗（同上）、白尾 豪宏（公益財団法人リバーフロント研究所） 他

(16:30～17:00) 本日のプログラムの振り返り @森の家 講義室

(17:00) 閉会

開会挨拶



主催・共催者を代表して、NPO 法人ホールアース自然学校の松尾章史さん及び本研修会の講師で「小さな自然再生」研究会の兵庫県立人と自然の博物館・三橋弘宗さんより、今回の研修会の趣旨説明を含む開会のご挨拶を頂きました。

座学研修 1 (午前)



芝川における自然体験活動の紹介と今後の展望 (松尾 章史 : NPO 法人ホールアース自然学校)

- NPO 法人ホールアース自然学校と主な取組みの紹介
- 小さな自然再生に取り組む背景・理由
- 今後に見据える可能性
- 今日の研修会の位置づけ

⇒ 講演資料は巻末「参考資料」を参照



芝川の魚類や水生昆虫のプラスチックネーション標本づくり

(三橋 弘宗：兵庫県立人と自然の博物館・ひとはく)

芝川に生息する魚類や水生昆虫を地域の方々により身近に感じ学んで頂く方法の一つとして、プラスチックネーション標本づくりの方法を紹介頂き、実際に芝川に生息する魚類での標本づくりを実演頂きました。

現地演習 1 (昼食前)

【芝川の視察 及び アクセス道路づくり】

午後からの演習プログラムの前に、参加者で芝川を視察し河川環境の特徴を学ぶとともに、今後継続的に水辺の活動拠点としていくため、研修参加者で川への安全なアクセスルートを開拓しました。

小さな自然再生活動のウォーミングアップとして、また参加者との連帯感を高める手段として、道具づくりやアクセス道路づくりなども小さな自然再生の大切なプロセスです。



研修参加者で安全装備を確認後、芝川へと移動



芝川ブルー



芝川の河川環境や水生昆虫等について学ぶ



作業に際しての危険な生き物等のガイダンスの後に、アクセスルートづくりの進め方を説明



水辺へのアクセス道づくり



アクセス道が無事完成しランチタイムへ

座学研修 2 (昼食後)

『環境教育プログラムとしての小さな自然再生』を体験してみよう！

芝川での実践演習の前に、室内にて「バーブエ」の機能やつくり方の簡単な説明、及び朝のプラスティネーション標本づくりの続きの作業を実演しました。



バーブエの説明及びプラスティネーション標本づくりの演習 (続き)

現地演習 2 (午後)

『環境教育プログラムとしての小さな自然再生』を体験してみよう！

午後の芝川での演習では、多様な流れの場や空隙を造るバープエづくりや、魚類や水生昆虫の観察、また寄り洲の機能を学ぶための川の砂を用いたろ過実験などを体験しました。

【バープエづくり】



バープエの設置位置やつくり方の現地ガイダンス



川底の石（河床の礫）を集めてバープエを造成



バープエが完成

【芝川の水生昆虫や魚類の観察】



水生昆虫や魚類のガイダンス

【川の砂を使ったろ過実験】



寄り洲の水質浄化機能を学ぶための川の砂を用いたろ過実験



ろ過実験に興味津々



実践終了後の記念撮影及びバープエ

室内まとめ



電子顕微鏡カメラによる水生昆虫の拡大映像観察及びプラスティネーション標本の完成



NPO 法人ホールアース自然学校の松尾さんより本日のまとめ



NPO 法人ホールアース自然学校の山崎宏代表より閉会挨拶

参考資料 1 (座学研修の講義資料)

【参考資料 1】 芝川での活動紹介および今後の展開について 講演資料 (1/4)

<h3>芝川での活動紹介および今後の展開について</h3>  <p>2025年10月21日 (火) 特定非営利活動法人ホールアース自然学校</p> <p>© 2025 NPO Whole Earth Nature School.</p>	<h3>メニュー</h3> <ol style="list-style-type: none">1. 組織紹介・取り組み紹介2. 小さな自然再生に取り組む背景・理由3. 今後に見据える可能性4. 今日の研修会の位置づけ <p>© 2025 NPO Whole Earth Nature School.</p>			
<h3>1. 組織紹介・取り組み紹介</h3> <p>© 2025 NPO Whole Earth Nature School. 1</p>	<h3>1. 組織紹介・取り組み紹介</h3> <h4>自然学校とは？</h4> <p>理念・意義 「人と自然」「人と人」「人と社会」を深くつなげ、 持続可能な社会づくりに貢献していること。</p> <p>活動 自然体験活動等の教育的な体験活動を、 専門家の指導の下で組織的に安全に実施していること。</p> <p>組織形態 責任者、指導者、連絡先住所、活動プログラム、活動場所、参加者を有していること。</p> <p>⇒大小・形式様々で、全国各地域に数千あると言われている</p> <p><small>※2010年7月 自然学校全国調査2010のデータを一部改変</small></p> <p>© 2025 NPO Whole Earth Nature School. 2</p>			
<h3>1. 組織紹介・取り組み紹介</h3> <h4>ホールアース自然学校とは？</h4> <p>→1982年に創設した「自然学校」の1つ</p> <table border="1"><tr><td>①「環境教育」の提供に強み ⇒「自然語」の獲得</td><td>②富士・富士宮「地域」で40年 ⇒ホールアースさんなら、というありがたみ</td><td>③あらゆる場のコーディネート ⇒異分野との掛け算による視野拡大</td></tr></table>  <p>© 2025 NPO Whole Earth Nature School. 3</p>	①「環境教育」の提供に強み ⇒「自然語」の獲得	②富士・富士宮「地域」で40年 ⇒ホールアースさんなら、というありがたみ	③あらゆる場のコーディネート ⇒異分野との掛け算による視野拡大	<h3>1. 組織紹介・取り組み紹介</h3> <p>Vision : 世界の平和と調和がとれた世界 (社会) を希求する</p> <p>Mission : 様々な人々を対象にした体験活動により、 自然語 (=日本型の自然の捉え方や感性) を育む</p> <p>Vision・Mission実現のための3つの柱 :</p> <ol style="list-style-type: none">①多様な主体への環境学習の機会提供②生物多様性の維持・回復③地域社会への貢献  <p>© 2025 NPO Whole Earth Nature School. 4</p>
①「環境教育」の提供に強み ⇒「自然語」の獲得	②富士・富士宮「地域」で40年 ⇒ホールアースさんなら、というありがたみ	③あらゆる場のコーディネート ⇒異分野との掛け算による視野拡大		

【参考資料 1】 芝川での活動紹介および今後の展開について 講演資料 (2/4)

1. 組織紹介・取り組み紹介

- ・年間売上：約**3.3億円**（2021年度決算）
- ・スタッフ数：**35名**（正規雇用）
- ・参加者数：約**25,000名前後/年平均**（教育旅行などの団体対応を含む）
- ・全国**8拠点**（静岡、新潟、福島、沖縄、岐阜）にて活動



富士山本校（富士宮市）



田原湖ふれあい自然塾（富士宮市）



富士市立少年自然の家（富士市）

⇒地域に根差し、地域の方々と共に、地域ならではの活動を展開している

© 2025 NPO Whole Earth Nature School. 5

間接的アプローチ：人材の育成



⇒幅広い対象に多様な自然体験を提供することで、「自然語（=生きる力）」を身につけてもらう

© 2025 NPO Whole Earth Nature School. 6

直接的アプローチ：地域課題の解決



⇒「小さな洞」を生み出し、地域ならではの価値を掘り起していく

© 2025 NPO Whole Earth Nature School. 7

2. 小さな自然再生に取り組む理由・背景

© 2025 NPO Whole Earth Nature School. 8

「芝川」について

富士山麓、西側を流れる湧水を起源とした清流
古くは縄文時代から人の生活が見られる豊かさの象徴

候補河川名	芝川（しばかわ）
等級	一級河川（富士川水系）
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・源流部は静岡県養老場（猪之頭地区）となっている ・湧水が流れ込む箇所が一方で、生活排水も流入する ・ヤマメ、アマゴ、ニジマス、コイなどが放流されている ・カワノリノの生育も確認されている（現在は不明） ・企業の利用排水の流入や電力会社の取水がある



© 2025 NPO Whole Earth Nature School. 9

「芝川」における自然体験活動の取り組み

富士山の恵みである大自然・芝川を
十分に利活用した（させて頂いた）体験プログラムの数々



© 2025 NPO Whole Earth Nature School. 10

【参考資料 1】 芝川での活動紹介および今後の展開について 講演資料 (3/4)

体験活動を通じた効果・実績・知見

体験した方々の、多様な気づきや学び
蓄積された「安全管理の技術・プログラム化のノウハウ」

安全管理などの
技術



学び・気づきを
促すプログラム



© 2025 NPO Whole Earth Nature School. 11

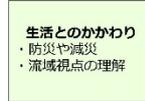
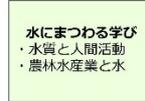
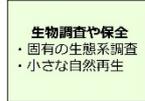
感じる課題や対策が不十分な項目

自然環境の変化に対する「なんとなく」からの脱却
大自然体験「だけ」からのバージョンアップ

自然環境の変化



大自然体験からのアップデート



© 2025 NPO Whole Earth Nature School. 12

取り組んでいきたいこと

環境教育プログラムの進化・深化
→学校教育、部活動、企業研修などへの展開

3. 今後に見据える可能性

学校教育との
かけ合わせ

部活動としての
地域課題への取組

企業研修での
「現場」の学び

© 2025 NPO Whole Earth Nature School. 13

© 2025 NPO Whole Earth Nature School. 14

4. 今日の研修会の位置づけ

全体像 (=今までの整理)

ホールアース自然学校のリソースや課題

×

専門家の知見 (三橋先生)

×

参加される皆さんからの多様なご意見や関わり

=

「小さな自然再生活動×環境教育」の
新たな可能性を探りたい！！

© 2025 NPO Whole Earth Nature School. 15

© 2025 NPO Whole Earth Nature School. 16

【参考資料 1】 芝川での活動紹介および今後の展開について 講演資料 (4/4)

芝川に触れる・感じる・体験してみる

さまざまなコンテンツの「**お試し回**」
みなさんのできること・やりたいこと
アイデアや掛け算を生み出したい！

今日の実施予定 (※現時点)

- ・バーブエづくり体験
- ・水ろ過の仕組み
- ・釣具の生分解化
(マイクロプラ問題)

その他etc...

© 2025 NPO Whole Earth Nature School.

17

さいごに (ありがたい未来・・・)

芝川の自然が、
多くの方々 (地域内外) に守られ活用され、
いつまでも豊かでありますように・・・

今日はどうぞよろしくお願いします！！



© 2025 NPO Whole Earth Nature School.

18

参考資料 2 – 参加者募集チラシ (表面)

第28回 静岡県富士宮市・芝川

「小さな自然再生」現地研修会

参加者募集

～「環境教育プログラムとしての小さな自然再生」を体験してみよう!～

開催日 令和7年10月21日 火

※本研修会は7/17(木)悪天候中止に伴う延期開催行事です。

【開催趣旨】 富士山の湧水を起源とする清流・芝川。今もその豊かさが残る一方で、いきものすみかの喪失や市民の川に親しむ機会の減少といった課題が見えてきています。今回の研修会では、小さな自然再生活動を通じた水辺の生態系保全と共に、その活動の中に見い出せるさまざまな環境教育プログラムを試行します。垣根を超えたさまざまな分野の皆さんと共に、知恵やアイデアを出し合いながら、「芝川のためにできること・芝川でできること」を考えたいと思います。

開催日時	令和7年10月21日(火) 10:00～17:00 (9:30～受付開始)
会場	静岡県富士宮市下柚野165 <座学:ホールアース自然学校 富士山本校 / 現地:芝川>
対象	芝川での保全活動や体験活動に興味・関心のある方々 (※未経験者でもOKです)
定員	30名(先着順)
参加費	無料
持ち物	胴長靴もしくは長靴、作業用手袋、昼食
プログラム	※プログラム及び講演タイトルは一部変更の可能性もあります。 ※主催者側で行事保険に加入いたします。

★分野が異なる方々も大歓迎です! 様々な立場の方で集まり、芝川の今後の可能性を考えましょう!

※参加申込方法、会場へのアクセス、問合せは裏面をご覧ください。

(10:00～10:50) 座学研修 @森の家 講義室
- 芝川における自然体験活動の紹介と今後の展望 (松尾 章史: NPO法人ホールアース自然学校)
- 芝川の魚類や水生昆虫のプラスチック標本づくり (三橋 弘宗: 兵庫県立人と自然の博物館・ひとく)
(11:00～16:00) 小さな自然再生と水辺の環境教育の実践 @芝川
- バープエで寄り洲づくり、魚の隠れ家づくり実践・解説
- 環境教育プログラム実験
寄り洲があると水が綺麗になる ～ 川の砂を使つたる過実験 ～
水生昆虫を餌にして、生分解資材だけでフィッシング (竿もテグスも針も生分解資材)
■現地技術指導: 三橋弘宗 (同上)、白尾 豪宏 (公益財団法人リバーフロント研究所)
※途中で、昼食・休憩・交流・移動の時間を設けます
(16:30～17:00) 本日のプログラムの振り返り @森の家 講義室
(17:00) 閉会

 河川基金 公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

主催: NPO法人ホールアース自然学校、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク
協力: 芝川で小さな自然再生を楽しむ有志の会、公益財団法人リバーフロント研究所



「小さな自然再生」現地研修会（第28回）開催報告

～ 2025年10月21日（火）静岡県富士宮市・芝川 ～

2026年3月20日

【発行】

日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF茅場町ビル7階

公益財団法人リバーフロント研究所 内

電話:03-6228-3861 Fax: 03-3523-0640

E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

※JRRN 事務局は、公益財団法人リバーフロント研究所が公益を目的に運営を担っています。